

心を決めた瞬間になにかがふってくる それは私にとって「花」でした



専修大学入学と共に「花」と出会い、
社会に出てからは花を教えた桜井さん。
オランダ、フランスといった
世界のフラワーアレンジメント資格を得て、
「花育」という、また一步
新たなステージへ向かっている。
大学での出会い、花との関わり、
そして花育について語っていただいた。



桜井はる枝さん

株式会社HARUE FLOWER代表取締役
さくらい はるえ ●東京都江戸川区出身。
昭和62年、法学部法律学科卒業。大学在
学中に華道(古流)とアートフラワーの資
格を取得。就職後も花に絶えず関わり、
母の教えである「手に職を持つ」を守り、
花のエキスパートとなる。国内外で花の
国家資格取得多数。

政治の世界に夢中 在学中に大人の世界を見る

高校は松戸にある専修大学松戸高校
を卒業しました。高校の友人の多くが
専修大学に進学するというので、私
も専大への進学を決意しました。法学
部を選んだ理由は、2年生から神田校
舎に通えるという理由からでした。

学生時代、法律学科ながら、政治学
のゼミに入るぐらい選挙が大好きだっ



卒業時、一番
右が桜井さん

たんです。法律は生き物と言われます
が、政治はそれ以上に生き物だと思っ
て、授業でも政治学の「現代日本政治」
などを選択するほどでした。大学4年
の頃には衆参ダブル選挙があったん
です。当時、故・渡辺美智雄さん(※)の
秘書さんに専大の先輩がいらっシャッ
て、議員会館で年賀状書きのアルバイト
をしたり、地元候補者の選挙事務所
でうぐいす嬢のアルバイトをしては
「票読みのおじさんたちってすごいな」
とか、大人の政治の世界を直接見て
いました。周りの友達に興味を持つ人は
誰もいませんでしたけど(笑)。

ゼミは3~4年の2年間、柴田敏夫先
生のゼミナールに入っていました。「戦
後日本の政党政治」がテーマで私にズバ

りの内容でした。私が研究していたの
は片山内閣です。戦後初の連立内閣で、
独特で面白くて夢中で研究しました。

母のひと声で華道をはじめ、 一生涯の付き合いに

大学入学を機に茶道と華道をはじめ
ました。それも自主的ではなく、親
の意見があつてのことでした。という
のも、法学部は週休2日でしたが、私
の姉は薬学部で、連日実験で忙しくし
ていました。同じ学生なのにこうも違
うのか、と驚いた母から「毎週水曜日
はお茶とお花をやりなさい。やらな
ければ小遣いはやらない」と言われた
のが始まりでした。

お花は古流という生花の流派で、当
時18歳の娘には渋くてつまらない内
容でした(笑)。いまとなつては花の世界
はみなひとつに通じると実感していま
す。当時、先生のところで習って帰る
と活け返すということもせず、お花を
大切にできなかった罰があたって、「一
生涯をお花と共に生きなさい」と、神
様に言われたのかもしれない。

大学時代のご縁があつて 「花」の教室を開くことに

大学3年から生花と並行して、布の
お花も始め、卒業時には生花、フラワー
アレンジメントの資格を取得しました。
卒業後、映像制作会社の総務部に勤め
ました。その頃から自分で花を飾って
みたいという気持ちが芽生えました。

2年後退職し結婚。一時は主婦業に専
念しますが、再び社会に出ることを選
び、それならば「お花」でとなつたの
です。最初は近所の美容院でブーケを作



日本、オランダ、フランス
の資格。フラワーアレン
ジメントの第一人者としてこ
れからの活動に期待

てくれと頼まれました。その日がた
たまたま大学のスカッシュ愛好会のOB会
の日で、遅刻して参加し、その理由を
先輩に「ブーケを作っていました」と
答えると「そんなことができるなら来
月からうちのホテルでお花の講習会を
しなさい」と言われたのです。先輩に
は「はい」か「YES」で答えるしか
ありませんから(笑)、すぐに企画書
を出して月に1回教室を開くことにな
りました。その噂を聞いて生命保険会
社さんから依頼され、月2回教室を持
つことになったのです。

30歳で身ごもり、出産とな
るのですがまた社会復帰でき
るだろうと安易に考えて仕事
を手放しました。いざ希望し
た頃には世の景気も悪くなり、
復帰できる場所はどこにもあ
りませんでした。私は社会と
関わる場所がほしかったので「これまで携わってきたお
花で身を立て、自分が必要と
されるにはどうすればよいだ
ろうか」と考えた時、どこからか世界
に目を向けるという答えがふつてきた
のです。日本のお花の世界は世襲制が

色濃いのですが、純粋に腕を評価して
もらえるヨーロッパに目を向けたので
した。

これからの自分の生涯をかけて 「花育」を普及させることに専心

38歳の時、専門学校でフラワーデザ
インの講師をしながら、オランダのフ
ラワーアレンジメントの国家資格
(DFA)を取りました。でも、この資
格はかなり難易度が高く、私の生徒も
挑戦はするけどすぐには受からない内
容でした。これでは一般の人
に広まらないと思ったのです。

そこでフランスに目を向けま
した。フランス園芸協会
(DAFA)はほどよい難しさ
があるもので、まずは私が資
格取得を目指しました。その
資格には1~3があり、私は
3という公開テストを受けま
した。ステージ上で2パター
ンおしゃべりしながらお花を
アレンジして、オブジェクト
を作って、美術評論をするという試験
でした。2011年6月に5人で試験を
受けたうち、4人がフランス人で、私



「花育」 とは

農林水産省が花を通じて豊かな心を育てることと定義づけたものが「花育」。桜井
さんはさらに進化させ、花を育てる、アレンジメントする、食べる……を三位一体
とすることを提唱する。子供、高齢者、障害者、そしてすべての人を対象に「感性
を育てるには自分が育てたものを食することが必要。子供たちが実やハーブなどを
持ち帰って、お母さんこれでお料理して」といった意識を持つこと」で、豊かな感性
の発育を目指す。現在協賛企業を募り、将来は花育協会の設立を目指す。

だけが日本人でした。お部屋にある花
を選んで使うんですが、テストの順番
が後ろほど条件は悪くなります。私は
日本人なので5番目でしたが運良くダ
ントトップで合格しました。

時が流れ、私は一人で息子を育てる
事となりました。そんな時、縁あつて
失業者に対して職業訓練の学校を開き
ました。当時有限会社を持っていま
しが、国の仕事をするにあたり株式会
社にしました。2014年に教室を閉め、
2015年にはこれまでの顧客のお仕事
をさせていただきながら次の展開を考
え、「花育」に到達しました。

残りの人生は「花を通じて教育する、
花を通じて世界の人を笑顔にする」、
それを目指しています。具体的には10
万円で協賛企業さんを募り、私が教室
を開きます。花育活動を通して企業さ
んのCSR活動のお役に立てれば嬉し
いです。そんな企業さんを一社ずつ増
やしていきたいと考えています。

日本人はお花を買う習慣がありませ
ん。海外に行くと市場でおじさんが肉
を買って、お花を自然に買っていきま
す。日本人はもともと花に囲まれた借
景のなかで生活してきましたが、いまは
暮らしが変化して自然に親しめる環境
が少なくなりました。だからこそ植物
を飾って、そこからエネルギーをもら
うことが大切なんです。好きな服を着
るように花のパワーを身にまといほ
しいと思います。

命あるものには終わりが来ます。だ
からこそ、「どうせ枯れちゃうから」
と敬遠するのではなく「枯れてよかつ
たな」と思ってあげてください。お花
は悪いものを全部吸って役目を持って
終わっていくんです。だから枯れたら
「ありがとう」と、感謝のひとつを言
かけてあげてくださいね!(談)